

# 熊本震災支援ニュース No.2

川崎協同病院

## 全日本民医連の震災支援報告

第7陣の地域訪問行動に参加して・

田中忠雄（管理室：第7陣に参加）

5月1日に米の山病院で前泊し、2日早朝に熊本・くわみず病院に移動して支援に入りました。

到着後、直ぐに朝のミーティングがあり支援第6陣と交代。第6陣で支援に入っていた、感染管理の渡邊さんをハイタッチで見送りました。午前中は友の会事務所で現地の状況の報告を受けた後、車で益城町の様子を見せてもらいました。ニュース映像などで目にした倒壊した家屋が、そこかしこにあり、改めて今回の地震の大きさを痛感し言葉を失いました。



益城町からの帰り道、熊本市民病院の前を通ると正面に巨大なテントが2基張られていました。今回の震災の影響で施設が、使用できなくなり、入院患者は転院させ、急患はテントで診察してと説明を受けました。市民病院は以前より耐震性に不安があったそうですが、病院の耐震補強を行わず駅前開発を優先したのだそうです。

午後からは車で20分程移動し、くすのきクリニックへ。近隣地域にローラー作戦で訪問。車の中から見えた景色では、屋根瓦が飛んでブルーシートで応急処置をした家屋は数多く見られましたが、益城町のように倒壊しているようには見えませんでした。ところが、くすのきクリニックから少し歩くと倒壊は免れたものの、とても人が住める状況でない家屋が点在していて、訪問したお宅で支柱がズレ床から浮いている状況なども見せてもらいました。いつ崩れか分からない家屋、道には屋根瓦や倒れたブロック塀などが散乱。住人の方々は身の危険や不安を感じつつ、片付けのため避難所や身を寄せている親戚宅から通っていました。社協などのボランティアは、お願いしても、いつ来るか分からず、来たとしても活動範囲に制限があり、お願いしたい事が頼めないそうです。また、夜間は人が少なく物騒で訪問したお宅でも震災後に2度も空き巣に入られたとの話を伺いました。

翌3日も引き続きローラー作戦。祝日のため板井院長をはじめ、くすのきクリニックの職員や友の会方も参加しての地域訪問や気になる患者訪問行動を行いました。

板井院長や友の会の方から差し入れもごちそうになり2日間で、全体で約300件の対話をしました。



板井院長、差し入れの『日本一たいやき』美味しかったです。

支援に行ったのに御馳走になってすみません。

現在、多くの方が困っている事は、住宅診断が進んでいない事や、り災証明等の手続き、連休明けの学校再開で避難所が無くなる事への不安など行政絡みの問題が多くを占めている。訪問して困り事を伺い、役所のどの部署へ連絡すれば良いかなどの相談や、現在、発表されている救済措置について伝えるだけになっているのがとても歯がゆく感じました。幸い、自分が訪問したお宅では健康被害を訴えられる方は少なく、現在・車中泊をされている方もいませんでした。被災地を目の当たりにし、復興までは長い道のりになり長期的な支援をつづける必要。また、遠く九州で起こった震災と捉えず自院でも地震への充分な準備が必要と思いました。



## くわみず病院周辺・市街地の様子

震災から半月が経ち、くわみず病院から徒歩5分の場所にあるコンビニも普通に営業していました。棚には商品がない空きスペースも見られましたが、東日本大震災の教訓が活かされ大抵の物は手に入りました。約2km離れた場所にある銭湯も24時間営業を再開。震災

後、瓦やブルーシートなど一部、品薄の物もあるようですが道路や鉄道などが復旧し始め、徐々に解消されつつあるそうです。また、どこのゴミ捨場にも、つい最近まで使用していた生活感のある家具が山のように積まれていました。

支援期間を終え、親戚が住む八代市へ向かいました。途中、熊本駅周辺や熊本城の被災状況も見に行きました。熊本城や阿蘇大橋などの被災に現地の方は大変に心を痛めていました。早く修復され復興のシンボルになって欲しいと思いました。